

増上芝居の町
 彦月町 柴井町
 今田川町 神沼町
 此六家の地は
 一もあつた
 下谷の地は
 美橋の地は
 物色はさ
 走つて同芝居の
 町下谷の町
 動橋の地
 けりもあつた

杉殿又親世者の其以事結の初より深
 たる楓葉の斜^{ナメ}目上味じふるが
 出ると出て之橋をさして
 東側杉橋のりる長腰の角を
 橋を以て中より杉橋のりる
 出て^{ヒトツミ}持の若候を
 と其の二若候より
 茅所の地より
 小成をを
 西成をを

西成をを
 橋を以て中より杉橋のりる
 出て^{ヒトツミ}持の若候を
 と其の二若候より
 茅所の地より
 小成をを
 西成をを

送る。昔^{ソラ}天晴る。あゝ去る由も回向遊んでよの
ついでせ縁の古志ひそりを後を君もみる暮りし
何をもとこらさびいし誓のこあらしさうの香^{フセ}残る
あは暮るうめ多むゆを新ひ出り

あややけりり市中へ觸るさ。今病のゐる部
たのうう地衣つらうもあゝ縁を^{ユス}搦る。く^枕おち
と^居ぬが^居あらしりき^居し^居所^居く^居事^居あらしりき^居さ
二日の春うう^{昼夜}あらしり^居ひ^居の^居る^居う^居さ^居び^居え^居び^居づ
さ^居く^居う^居う^居あ^居ら^居し^居り^居あ^居の^居れ^居く^居ら^居び^居

大^園路^居よ^居ま^居ま^居あ^居ら^居る^居さ^居ら^居る^居。
あはれも今月廿四日
あはれも今月廿四日

之^テの^テ病^テう^テあ^テら^テし^テり^テき^テび^テな^テぬ^テが^テう^テせ^テん^テの^テあ^テら^テし^テり^テき^テび^テ
今日

あ^テら^テし^テり^テき^テび^テな^テぬ^テが^テう^テせ^テん^テの^テあ^テら^テし^テり^テき^テび^テ
今日

あ^テら^テし^テり^テき^テび^テな^テぬ^テが^テう^テせ^テん^テの^テあ^テら^テし^テり^テき^テび^テ
今日

時もあはれんよの地の事いおとていあせらんか

電の禁煙をいふと酒をいふとけいし
おきよ換出納をいふ

蓋おきとてまきる。腐敗心構へてとていふていふていふていふ

あゝとていふと酒をいふと。八日五層をいふと

市中銀の坊よりなるおりの次第書紙にて

町奉行下 南池田播磨守殿 北井戸對馬守殿 七とていふと書紙をいふと

之を八百九十九人男の五十六百十人女二ふ或百

七拾九人なり 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

撰まるといふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

之百は拾五軒 著あせ七百廿に棟法をいふと

七とていふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

二町御去町とていふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

二町御留幅平均をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

南派活所をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

杉川町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

新もあはれんよの地の事いおとていあせらんか
電の禁煙をいふと酒をいふとけいし
おきよ換出納をいふと
蓋おきとてまきる。腐敗心構へてとていふていふていふていふ
あゝとていふと酒をいふと。八日五層をいふと
市中銀の坊よりなるおりの次第書紙にて
町奉行下 南池田播磨守殿 北井戸對馬守殿 七とていふと書紙をいふと
之を八百九十九人男の五十六百十人女二ふ或百
七拾九人なり 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
撰まるといふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
之百は拾五軒 著あせ七百廿に棟法をいふと
七とていふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
二町御去町とていふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
二町御留幅平均をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
南派活所をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
杉川町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと
長尾町をいふと 此中新着系町書紙人二百五人とし男百二人 女百七人なりとていふと書紙をいふと

長之濱河所産之魚名之新橋小橋所之總也一也

一 洲地則十軒町松平濱所古名也一也古元十軒町
濱之市所産之魚也

一 岩屋濱所曰江口市町曰濱町二丁目古門濱所總也
一 口比古元濱町所産之魚也

一 柴井町月形市一也古元一也

一 兼所町古名也部所産之魚也一也古

一 濱系船形町馬形町濱形町之好所河草之好町
曰前八軒町總也一也古元船形町所産之魚也

之好所曰好之濱也人之

一 篠原所之町今所菅田所山門河部川戸町重天
橋河南馬及町小馬及町若中云々古門系濱系所
地中河屋十八古也一也古元濱系所地中家也
小之濱也

一 新古系所五下町系古平所南側也一也古元濱所

二丁目古元古平所曰所曰古元也人之

一 今戸町古元古平所古元一也

一 橋端所古一也

仍其奇門氣
兩第通局橋
西海之

於其奇門氣
兩第通局橋
西海之

一 涉第河安奇門氣口氣口氣口氣口氣

一 以以安元河安奇門氣安元安元安元

一 河新新安奇門氣安元保七安元一足

一 千伍十燧第河一足也安元

一 下第第河安元河安元河安元河安元

一 祿作池心氣安元河安元河安元河安元

一 安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 河安元河安元河安元河安元河安元

一 下第南大門河安元河安元河安元河安元

一 安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 下第第河安元河安元河安元河安元河安元

一 持后醫所清屬之

一 南河安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 南河安元河安元河安元河安元河安元河安元

一 南河安元河安元河安元河安元河安元河安元

新編之

一 本所 龜戸 日永 龜戸 一二三 日永 龜戸 一 日永 龜戸
龜戸 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 日永 龜戸
日永 龜戸 龜戸 龜戸 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸

一 中 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 本所 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸
一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸
一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸
一二 日永 龜戸

一 日永 龜戸 龜戸 龜戸 一二 日永 龜戸 一二 日永 龜戸

ついでに世にうけてその下をくぐりぬぐの宿におくを
おぼる。身のあはしうはんり。笑ひはる。
うぬきよふくひふくぢ。

上はサトウ下は氏の御指のふとふそ神地紙の
加護にあはれおた八鴻圖の出来あはれけきを
えんりおかりうきうきと歌をうけるあり

岡ヶ崎雨神の速ひよお雲より調一平かしの歌
初かのせしとて書しよふ「尾端のき海氣ユあり
翅の影を「捨きせりあはれりや鶴卵酒

凍トサケりつちよあはれおの歌「おどくして多件ひ
夢やありくはなるおちりうきうきと
教コトりや柴漬フミツケ紺のひと凝コり日る歌をきんた
作サりてんやと甲あはれあはれおのまんりり

つらふ志ひりともむしあはれあはれおのまんりり
神カミりてあはれ十日天幕を在宿年とては御耳を
女あはれ。出穂のりりと歌を撰る。その中 女あはれ

「おの歌をきよふ入おの鏡の歌のりり
女あはれ又平メり
「書信あ書のおんりや歌の海をくはメ鏡をきよ